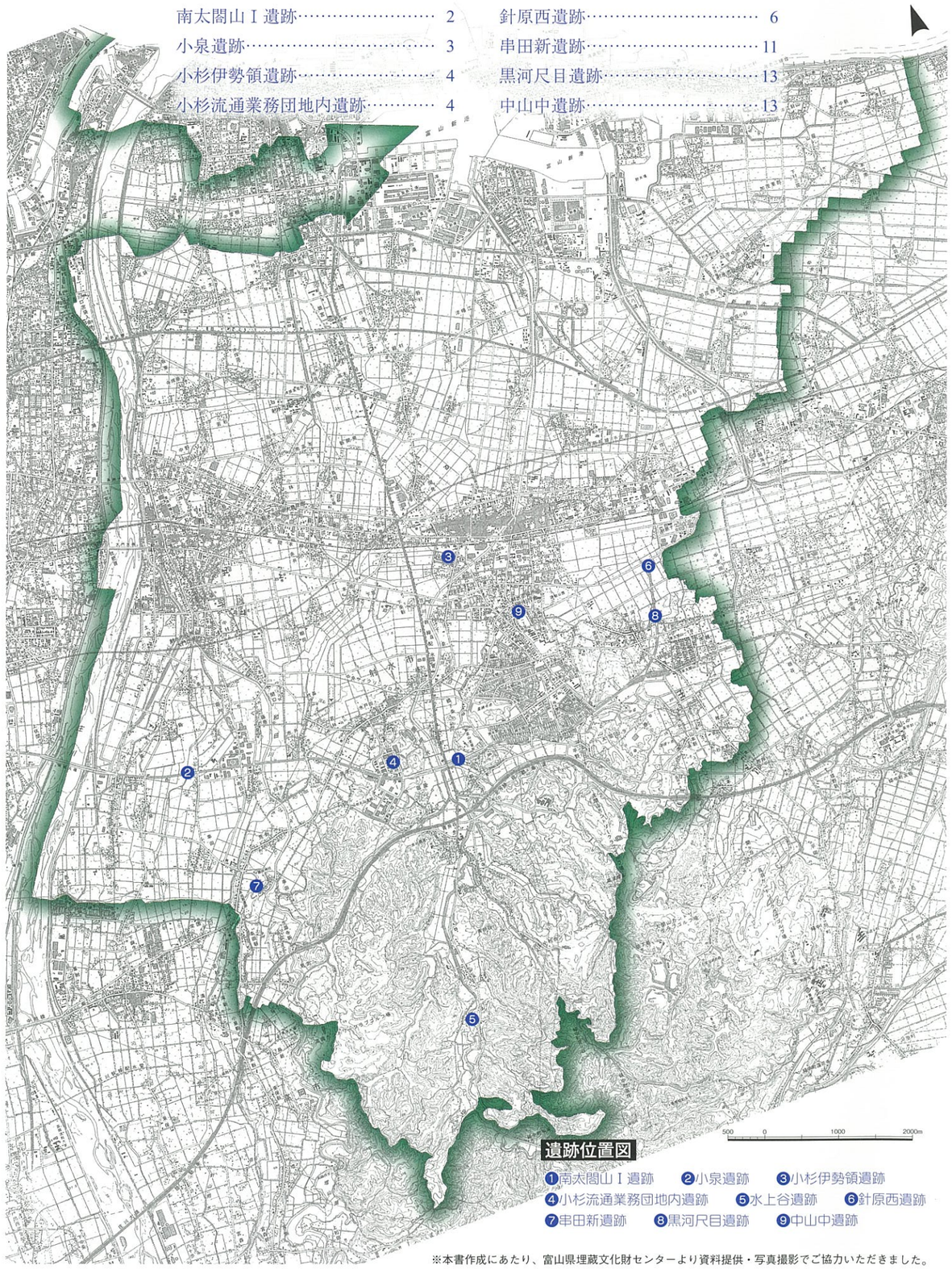
射水（いみず）の縄文（じょうもん）

遺跡から見える縄文人の生活

富山県射水市教育委員会

目　次

射水の縄文時代…… 1
南太閤山Ⅰ遺跡…… 2
小泉遺跡…… 3
小杉伊勢領遺跡…… 4
小杉流通業務団地内遺跡…… 4
水上谷遺跡…… 5
針原西遺跡…… 6
串田新遺跡…… 11
黒河尺目遺跡…… 13
中山中遺跡…… 13



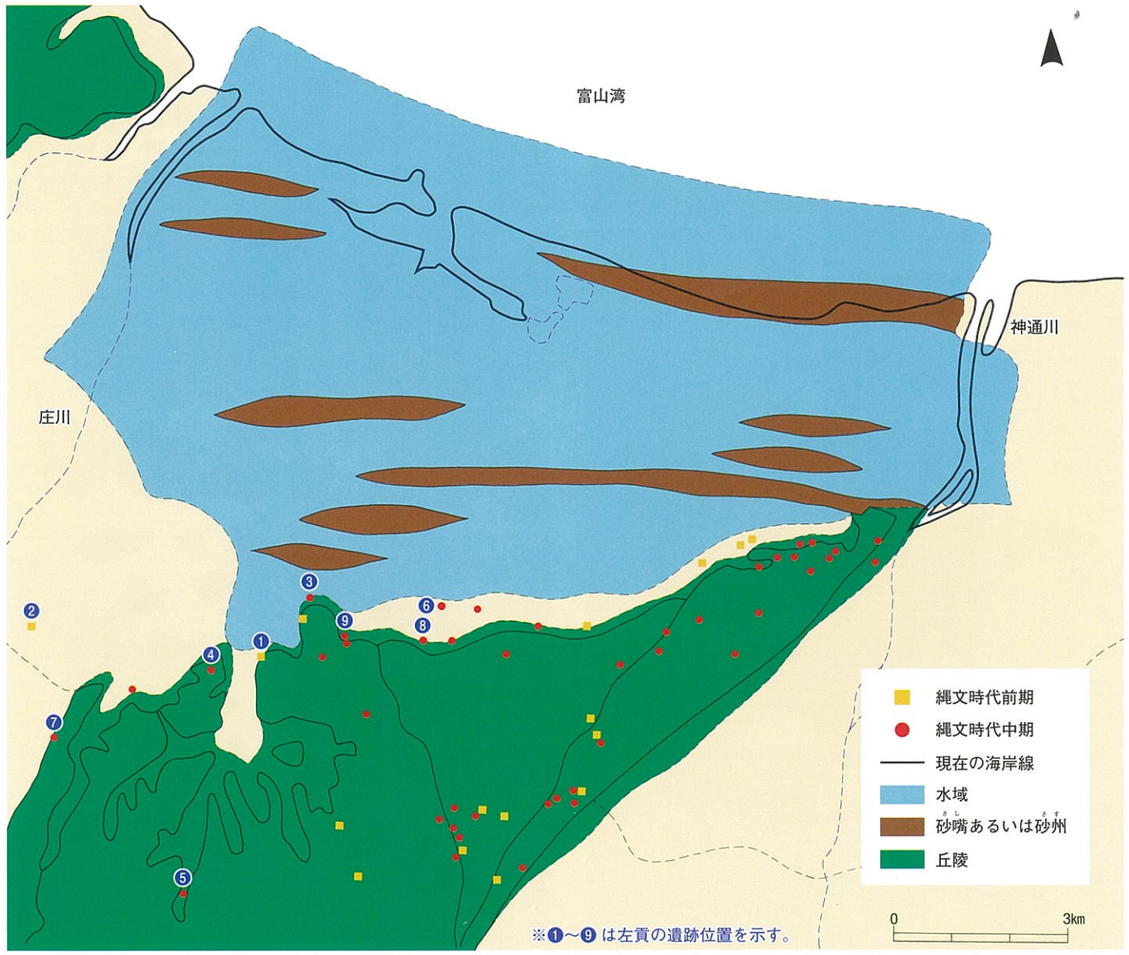
遺跡位置図

❶南太閤山Ⅰ遺跡　❷小泉遺跡　❸小杉伊勢領遺跡
❹小杉流通業務団地内遺跡　❺水上谷遺跡　❻針原西遺跡
❼串田新遺跡　❽黒河尺目遺跡　❾中山中遺跡

※本書作成にあたり、富山県埋蔵文化財センターより資料提供・写真撮影でご協力いただきました。

射水の縄文時代

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km・南北約７km範囲の低湿地帯です。約10,000年～8,000年前（縄文時代草創期～早期）に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積しています。この沖積層が堆積した時代は、海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられます。その後、約6,000年前（縄文時代前期前葉）の縄文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現在の地形図で等高線５ｍ位までは海面に水没していたことになります。その後、約5,000年前（縄文時代前期後葉）を境に気候の寒冷化による海面後退が進み、約3,000年前（縄文時代晩期前葉）には現在とほぼ同じ地形になったと考えられています。河川の土砂が堆積することで、かつての海は小さく放生津潟（現:富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れます。湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが澱み沼沢地を形成します。その後、湿原植物が枯れて泥炭が堆積して潟埋積低地に分類される現在の射水平野が形成されました。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積しています。このような自然条件下で、射水の縄文人は集落を形成し生活を営んできたと考えられます。市内には現在460箇所の遺跡があり、うち100箇所余りに縄文時代遺跡が確認されています。市内最古の縄文遺跡は早期末葉～前期前葉の廃棄場を検出した南太閤山Ⅰ遺跡になります。発掘調査により確認されている縄文時代前期～中期の遺跡は、丘陵裾部（南太閤山Ⅰ遺跡・串田新遺跡）や丘陵奥部（水上谷遺跡）、水域線と丘陵部の境目（針原西遺跡）、平野内部（小泉遺跡）などに分布していますが、縄文時代後期～晩期になると海面低下の影響で平野部河川付近や放生津潟周辺にまで分布が広がり、新たな生活域を求め縄文人は動き始めます。

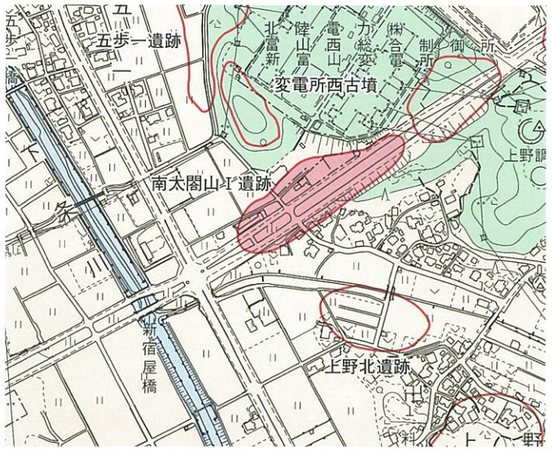


縄文時代（前期～中期）の地形と遺跡分布図

南太閤山Ⅰ遺跡

草創期 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期

遺跡は射水丘陵から流れ出た下条川が平野部に分け入る手前東西500ｍ前後、標高９ｍの谷平野に位置しています。昭和60年の調査で縄文時代早期末葉～前期の廃棄場から土器・石製品・動物遺体・クルミなどが出土しました。縄文土器は、前期前葉の佐波・極楽寺式で羽状縄文を施した尖底又は丸底のものです。動物遺体は、サメ・クロダイ・マダラなどの魚類、シカ・イヌなどの哺乳類、鳥類などが出土し、周辺で狩猟・漁撈活動が行われていたものと思われます。クルミは、約16万５千個という莫大な量が出土しています。採取したクルミを半裁し子葉を取り出したあと果皮を廃棄するにあたって、特定場所に長期にわたって投棄が継続されたものと考えられます。



南太閤山Ⅰ遺跡と周辺の遺跡

発掘調査区（下層）全景

多量のクルミ発掘作業

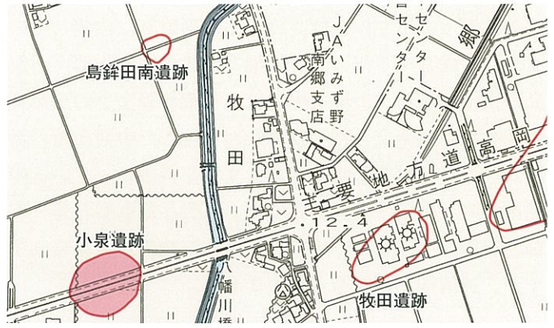
佐波・極楽寺式土器（深鉢）

石鏃・石匙・玦状耳飾・磨製石斧など

小泉遺跡

草創期 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期

遺跡は庄川右岸、扇状地端部の平坦地上に位置しています。昭和56年の調査で縄文時代前期中葉の朝日Ｃ式から、前期後葉の蜆ケ森式・福浦上層式、中期前葉の新崎古式までの土器や石製品（石鏃・石匙・磨製石斧など）が出土しました。竪穴建物などの住居祉は検出されておらず、定住性の拠点集落というより季節的なキャンプという想定が考えられます。また、中期前葉の遺物包含層上面からカシ・ハンノキなどの埋没樹根が発見されました。



小泉遺跡と周辺の遺跡

埋没樹根全景

遺物出土状況（下部包含層）

朝日Ｃ式土器（深鉢）

朝日Ｃ式土器（深鉢）

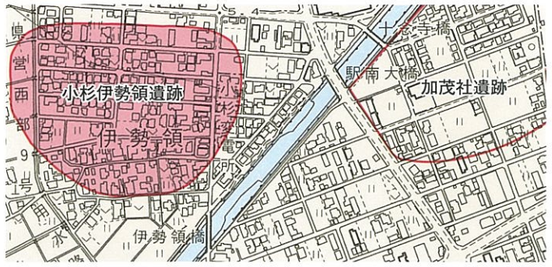
福浦上層式土器（深鉢）

石鏃・石匙・磨製石斧

市指定史跡 小杉伊勢領遺跡

草創期 | 早期 | 前期 | **中期** | 後期 | 晩期

遺跡は下条川左岸、標高約５ｍの平野部に位置しています。平成３～５年の調査で縄文時代中期の土器・石製品が出土しました。縄文土器は、半裁竹管文上の爪形文や花弁状の蓮華文・格子状文などを施した中期前葉の新崎式、半隆起線文による渦巻き文様を特徴としている中期中葉の上山田・天神山式です。石製品は磨製石斧・石棒・石錘が出土しています。集落の可能性が考えられますが、遺構検出には至っていません。



小杉伊勢領遺跡と周辺の遺跡

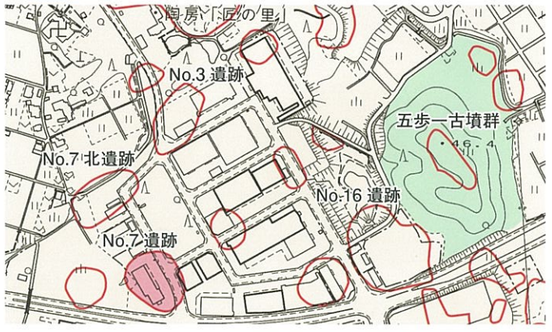
上山田・天神山式土器（浅鉢・深鉢）

新崎式、上山田・天神山式土器（深鉢）

小杉流通業務団地内遺跡

草創期 | 早期 | 前期 | **中期** | 後期 | 晩期

遺跡は下条川左岸、金山丘陵縁辺部の標高20～35ｍに位置しています。昭和56年第４次のNo.７遺跡北地区において、縄文時代中期前葉（約5,000年前）の竪穴建物跡３棟や土坑が多数検出されました。第102号竪穴建物跡は、平面形態が楕円形で規模4.1ｍ×4.8ｍを測り、幅25cmの周壁溝や６本主柱、単設式地床炉という構造でした。建物跡内からは、新崎式（中期前葉）土器の深鉢や磨製石斧４点が出土しています。



小杉流通業務団地内遺跡と周辺の遺跡

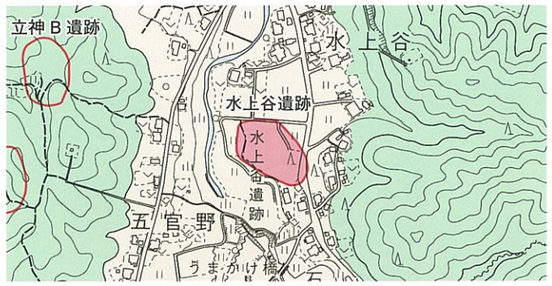
竪穴建物跡（No.７遺跡 第102号）

遺物出土状況（No.７遺跡 第114号穴）

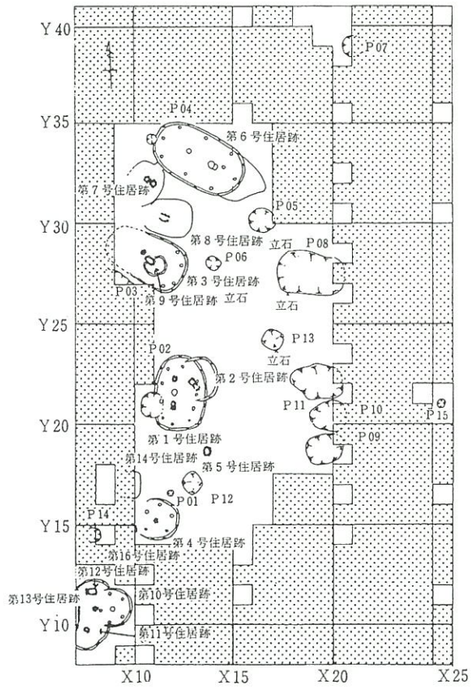
県指定史跡 水上谷遺跡

草創期 | 早期 | 前期 | **中期** | 後期 | 晩期

遺跡は金山丘陵北部、下条川と山地に囲まれた標高30～40ｍの台地上に位置しています。昭和48年の調査で、竪穴建物跡16棟、土坑13基、立石４個など縄文時代中期中葉の遺構が検出されました。竪穴建物跡は三時期に区分でき、居住区と広場的な共用区に土地を使い分けていたことが分かりました。また、複式石組炉は石組炉の変遷を考えるうえで貴重な発見となりました。遺物は、上山田・天神山式（中期中葉）土器や石製品（磨製石斧・石皿・石匙など）が出土しています。



水上谷遺跡と周辺の遺跡



遺構平面図（1:600）

遺跡遠景（東から）

第２号複式石組炉跡（第１号住居跡）

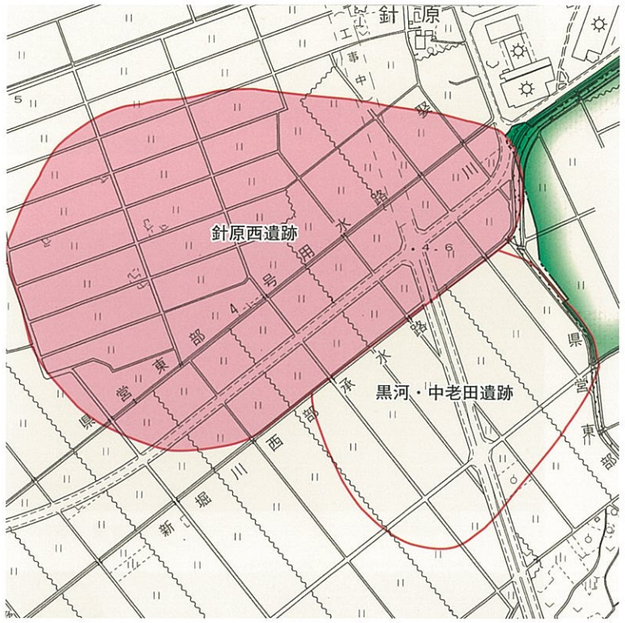
第６号住居跡（北から）

上山田・天神山式土器（浅鉢・深鉢）

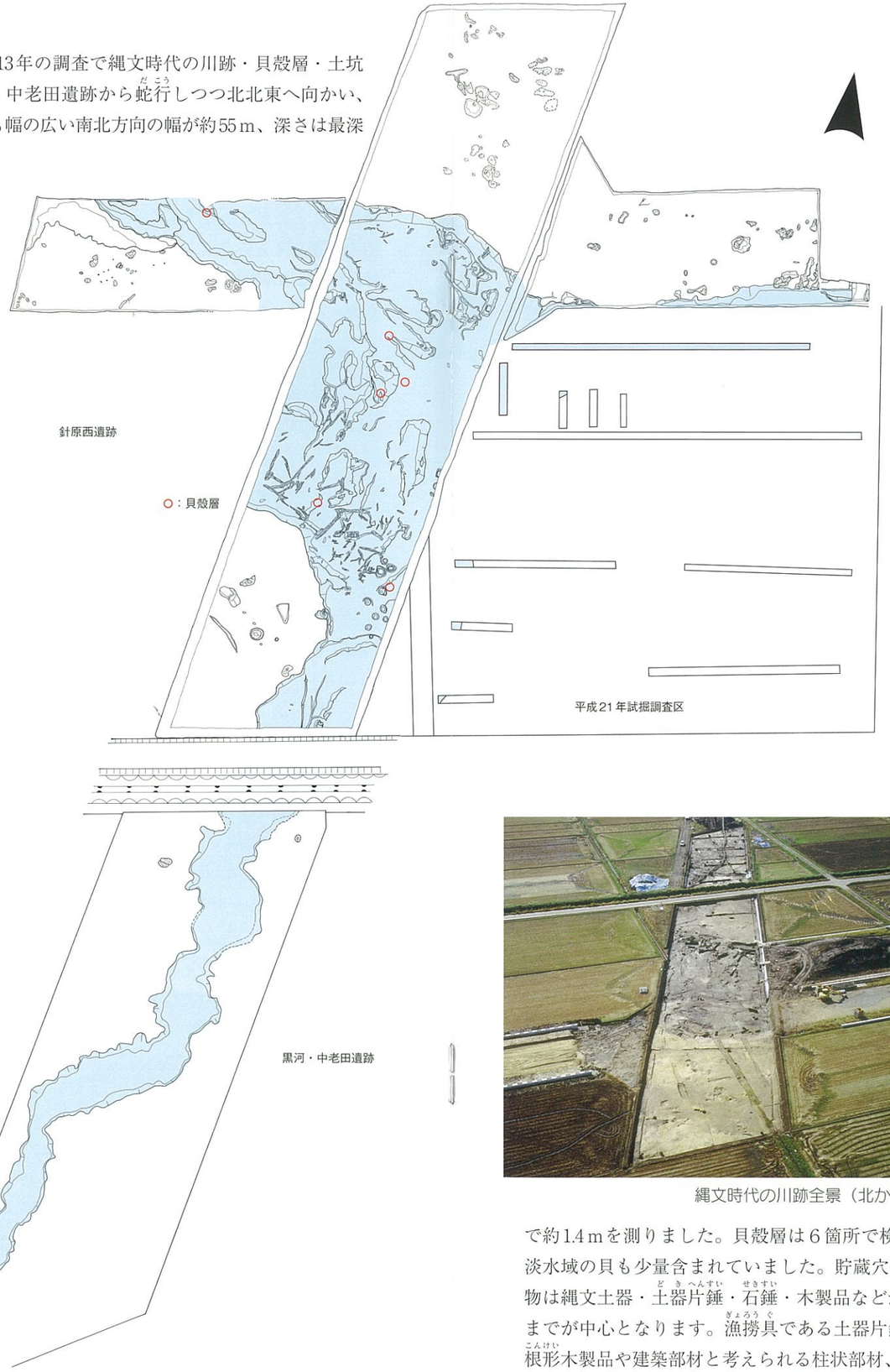
針原西遺跡（はりわらにしいせき）

草創期 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期

遺跡は射水平野南東域、標高約３ｍに位置しています。平成12・13年の調査で縄文時代の川跡・貝殻層・土坑（貯蔵穴含む）などが検出されました。川跡は南側に隣接する黒河・中老田遺跡から蛇行しつつ北北東へ向かい、針原西遺跡内にて東西二股に分岐しました（平成21年試掘結果）。最も幅の広い南北方向の幅が約55ｍ、深さは最深で約1.4ｍを測りました。貝殻層は６箇所で検出され、ヤマトシジミを中心にカキ・カワニナなど汽水域から海水・淡水域の貝も少量含まれていました。貯蔵穴は埋没後の川跡上に11基が検出され、ドングリが出土しています。遺物は縄文土器・土器片錘・石錘・木製品などが出土しました。土器は串田新式（中期後葉）から気屋式（後期前葉）までが中心となります。漁撈具である土器片錘と石錘は合わせて1,400点以上が出土しました。木製品は祭祀用の男根形木製品や建築部材と考えられる柱状部材、小型の弓なども出土しています。



針原西遺跡と周辺の遺跡

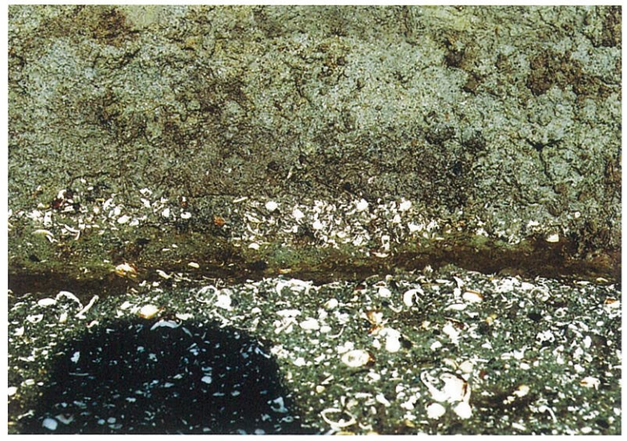


平成13年度発掘調査区遠景（北から）

男根形木製品出土状況

柱状部材出土状況

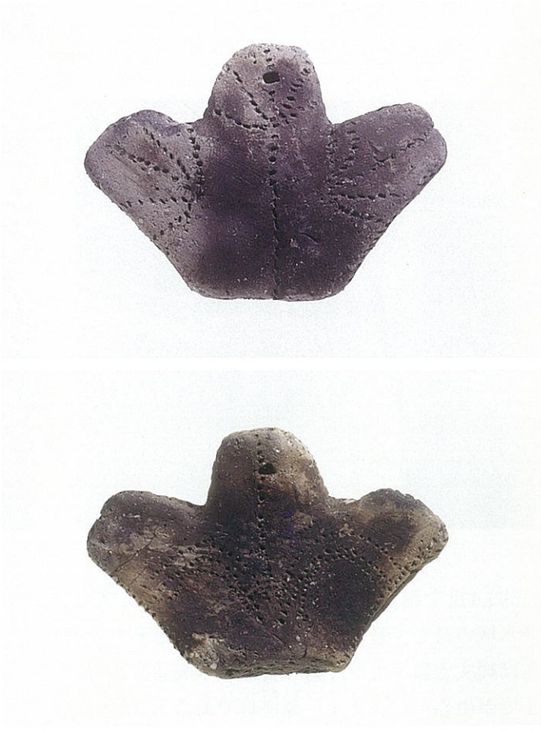
縄文時代の川跡全景（北から）


貝殻層堆積状況

上山田・天神山式、串田新式、気屋式土器（浅鉢・深鉢）

上山田・天神山式、串田新式土器（深鉢）

漆付き土器片

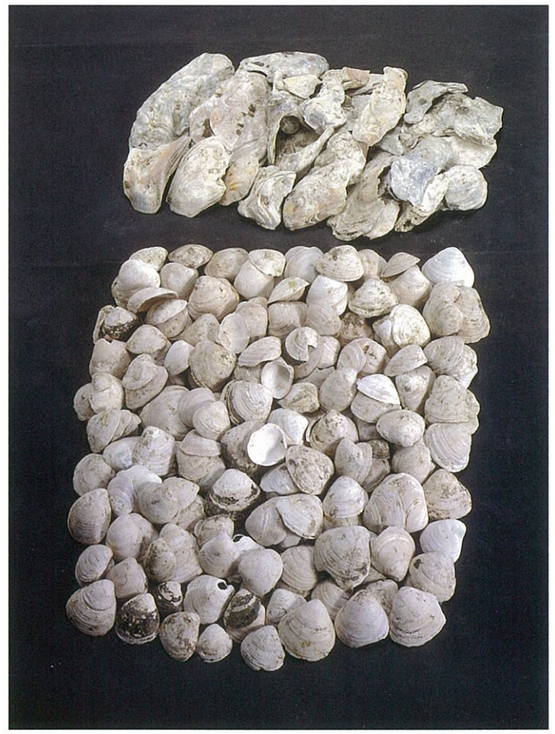


土偶

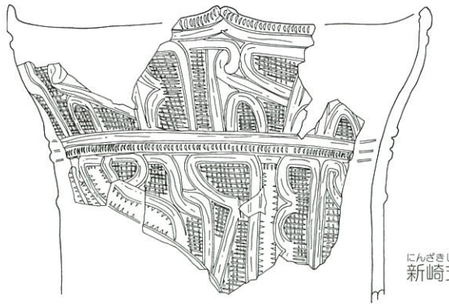
土器片錘

石匙・打製石斧・磨製石斧・石錘など

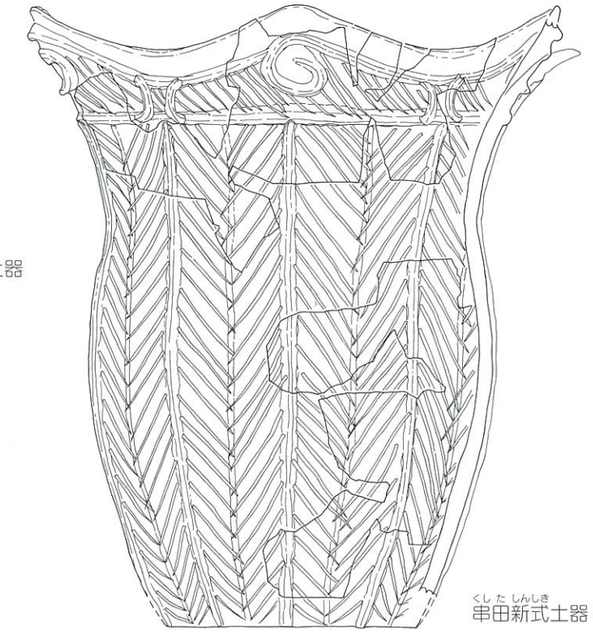
石鏃・環状石製品・玦状耳飾など



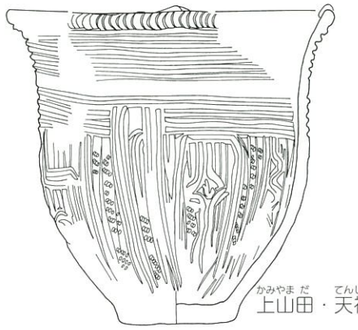
貝殻（下：ヤマトシジミ・上：カキ）



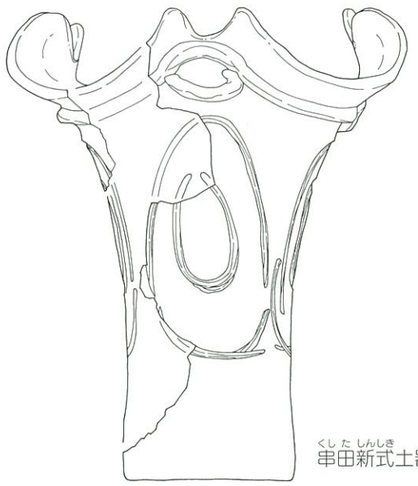
新崎式土器



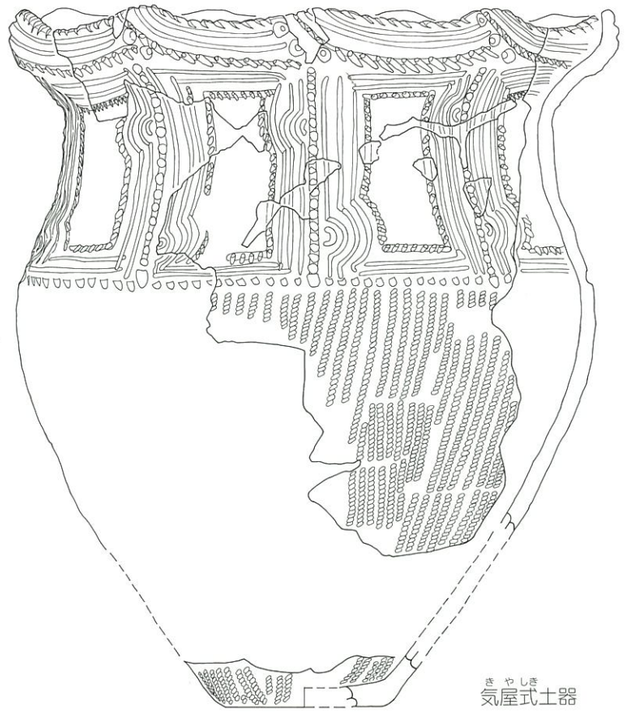
串田新式土器



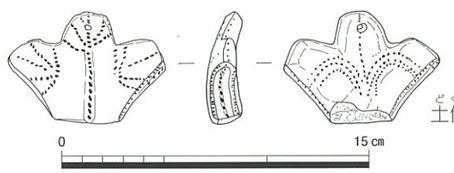
上山田・天神山式土器



串田新式土器



気屋式土器



土偶

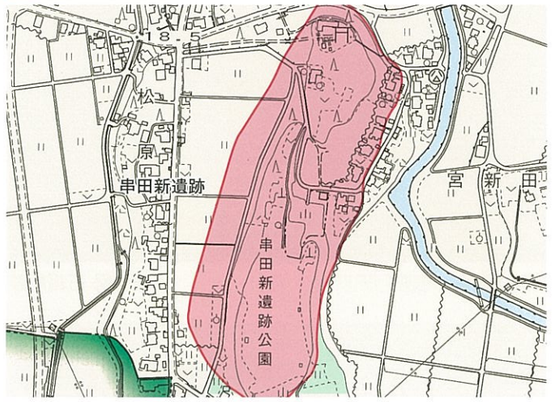
0　1：4　20cm

針原西遺跡　縄文土器・土製品実測図

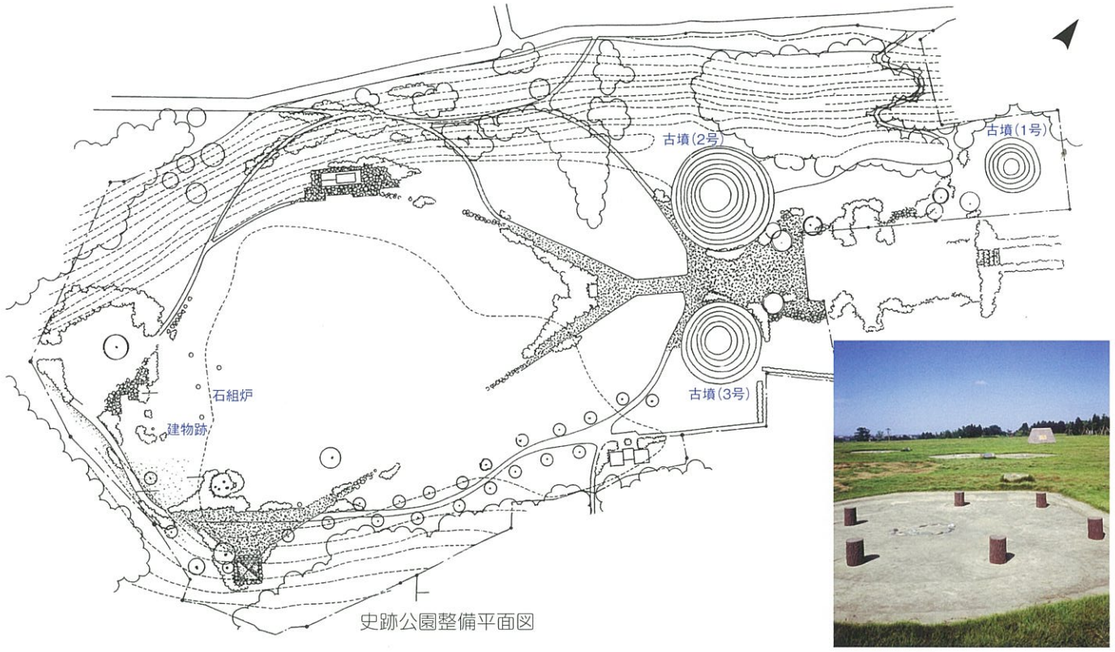
国指定史跡 串田新遺跡

草創期 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期

遺跡は地元で「大沢山」と呼ばれている南北約400ｍ、東西約150ｍの細長い独立丘陵上で標高46ｍに位置しています。昭和24年、県立小杉高校地歴班が地元の櫛田小学校に陳列されていた土器を実見したことが発端となり発掘調査が開始されました。翌年にはアナダラ属の貝殻の腹縁による圧痕文を特徴とする土器群が出土しました。これらの土器は「串田新式」と提唱され、串田新遺跡は北陸を中心とする縄文時代中期後葉の標識遺跡とされました。遺構は竪穴建物跡２棟・石組炉跡６基などが検出され、丘陵上一帯に大規模な集落が展開されていることも確認されました。その後、昭和51年に国史跡に指定され遺跡公園として整備されました。



串田新遺跡と周辺の遺跡



史跡公園整備平面図

第１号竪穴建物跡（復元）

遺跡遠景（北から）

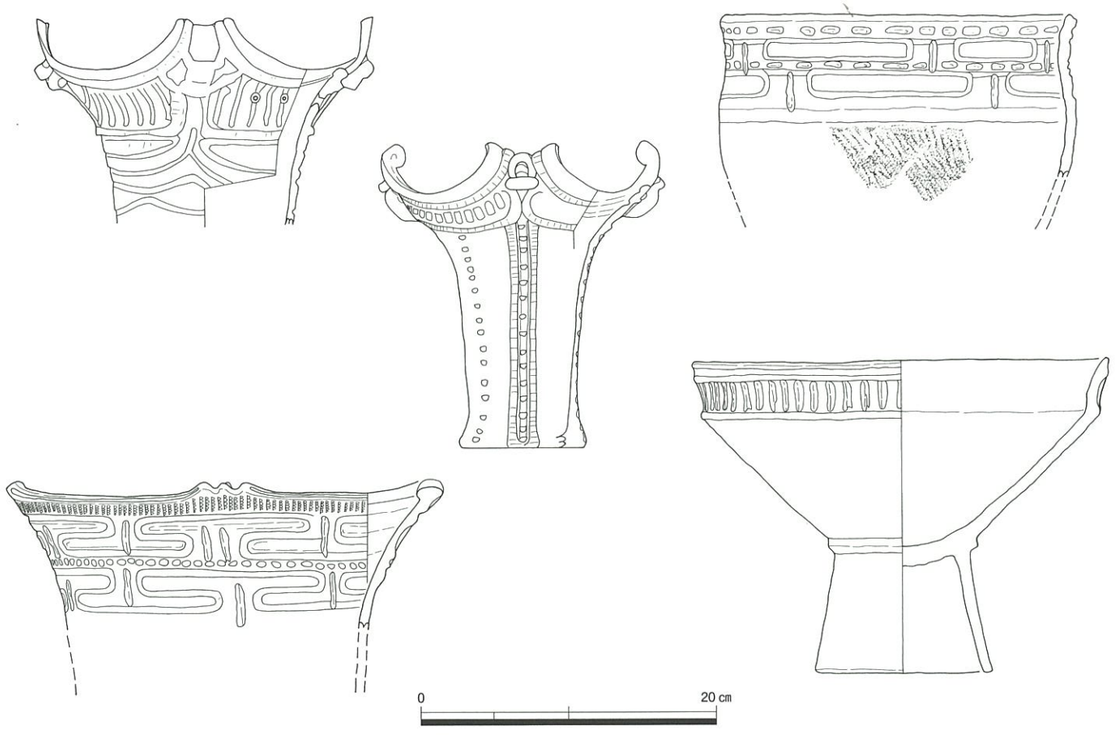
第２号竪穴建物跡（昭和47年度調査区）

第2号 石組炉跡

遺物出土状況（第1号竪穴建物跡の炉跡内）

串田新式土器（浅鉢・深鉢）

石鏃・石匙・打製石斧・石棒など

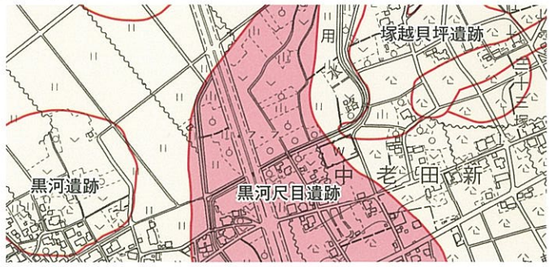


串田新式土器実測図

黒河尺目遺跡（くろがわじゃくめいせき）

草創期 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期

遺跡は太閤山丘陵東端部と平野が接する標高6～8mに位置しています。平成12年の調査で縄文時代の土坑46基が検出されました。そのうち粘土採掘坑（ねんどさいくつこう）と考えられるものが36基あり、複数の土坑が重複したもので、既存の穴を壊しながら掘り広げたものと考えられます。縄文土器は串田新式（中期後葉）が量的に圧倒し、新崎式や上山田・天神山式（中期前葉～中葉）、気屋式（後期前葉）が少量出土しています。



黒河尺目遺跡と周辺の遺跡

粘土採掘坑

串田新式土器（浅鉢・深鉢）

市指定史跡 中山中遺跡（なかやまなかいせき）

草創期 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期

遺跡は太閤山丘陵北端の標高約16mに位置しています。平成13年の調査で縄文時代の谷（土器捨て場）が検出されました。東西幅は約20～30m、深さは最深で現在の地表面から約1.7mを測りました。この谷からは、八日市新保式（ようかいちしんぼ）（後期後葉）から中屋式（なかや）（晩期中葉）にかけての縄文土器が出土し、富山県内の後期・晩期の様相を知る貴重な資料となりました。他には土偶6点や石鏃10点・打製石斧8点などが出土しています。

中山中遺跡と周辺の遺跡

平成13年度発掘調査区全景（西から）

御経塚式（おきょうづか）、中屋式土器（浅鉢・深鉢・蓋（ふた））

射水の縄文（いみずじょうもん）

遺跡から見える縄文人の生活

発　行　日／平成25年2月15日
編集・発行／射水市教育委員会
〒933-0292 富山県射水市加茂中部893番地
TEL 0766-59-8093　FAX 0766-59-8099
印　　刷／有限会社 山下印刷

※このパンフレットは文化庁の史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業にて作成しています